

災害時救出訓練

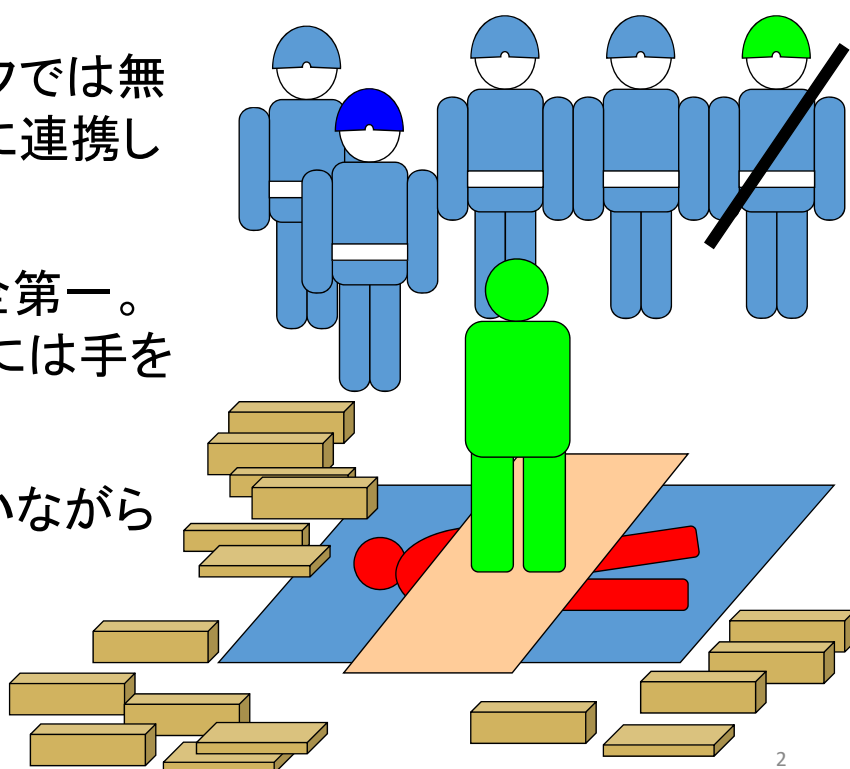
新宿駅周辺防災対策協議会



Facility Management防災Lab
上倉 秀之
連絡先携帯電話 090-5539-9484
メール: fmbousailab-20190401@memoad.jp

災害時救出訓練

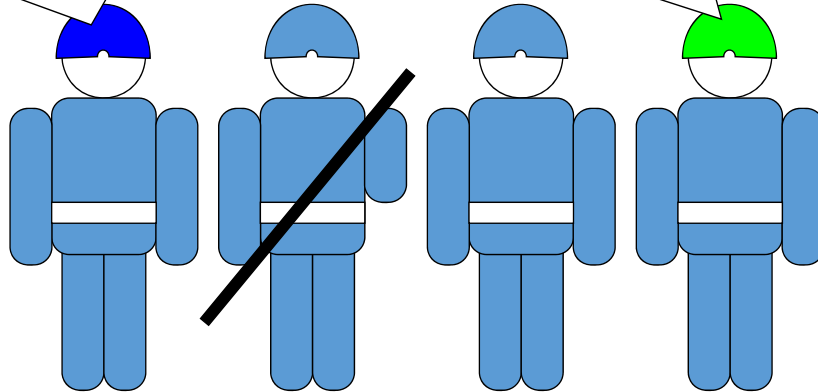
- ① タイムアタックでは無いので相互に連携して行う。
- ② 作業は、安全第一。障害物の下には手を入れない。
- ③ 声を掛け合いながら行う。



救出チームの編成・役割

リーダー…作業全体の指示。作業は直接行わない。

安全確認…作業の安全確認。



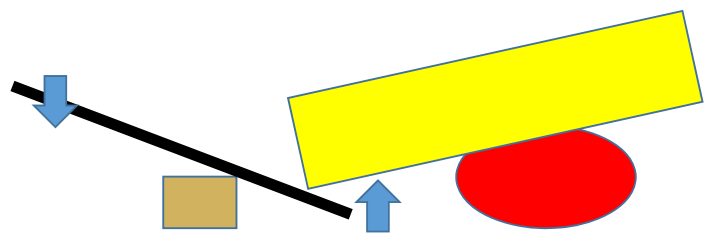
四〜五名・一チーム

メンバー…作業の実施。バール担当。

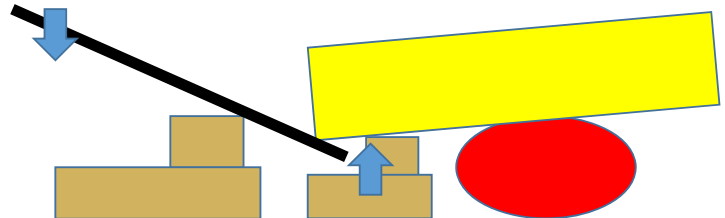
メンバー…作業の補助。空間確保担当。

救出作業イメージ

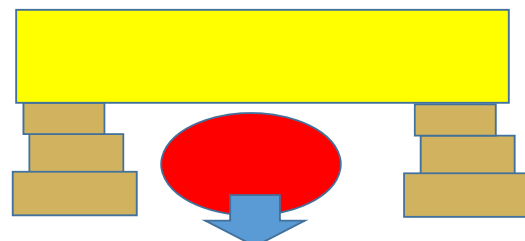
バールで要救助者に押し掛かっている障害物を持ち上げる。



バールで上がった空間に確保材を押し込み、さらに持ち上げる。



要救助者と障害物の間に空間が確保されたら注意深く救出する。



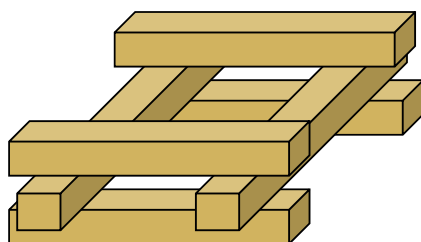
安全確保 「負傷しない！」

- ヘルメット・長袖・長ズボン・手袋・マスク等を装着する。
- 現場の安全確認を行う(破片・突起物・落下物・落下や倒壊の可能性・不安定な足場・救出障害物・搬送時の障害物・緊急時の退路確保)
- できるだけ現場の整理・清掃を行う。
- 不安定なものの固定、突起物等の覆い・注意表示・立ち入り制限等を行う。

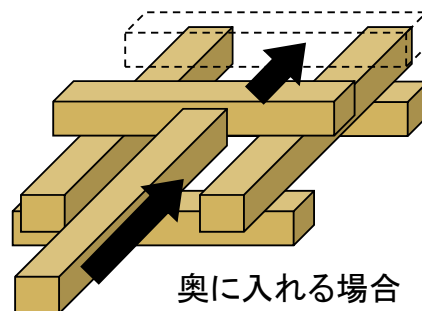
バール操作の留意事項

★バール操作の留意事項

- 全体重をバールにかけない。(跳ね上がり時の受傷防止)
- バールを強く握らない(跳ね上がり時の受傷防止)
- 足や手を挟まないように声を掛け合って行う。



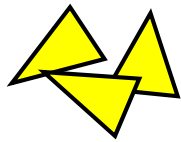
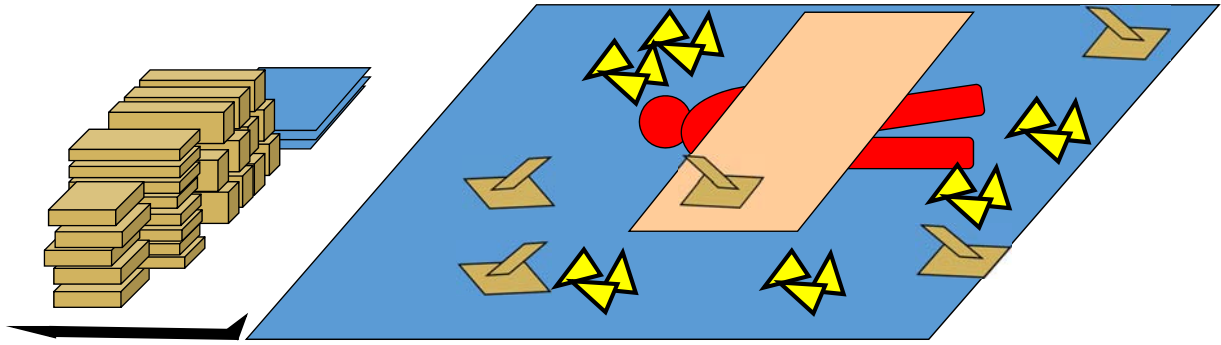
角材は井桁に組む



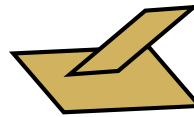
奥に入れる場合

状況

- ★施設周辺で地震が発生し、天井の一部が落下し一名が下敷きになったとの連絡があった。
- ★周辺には瓦礫や割れたガラス等が散乱している。

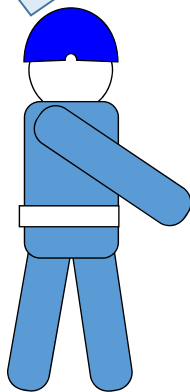


三角の「危険物」
…動かせる危険物

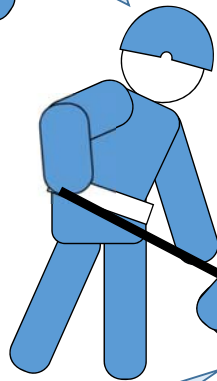


木製の「危険物」
…動かさない危険物

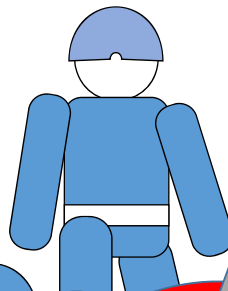
直角からバールで持ち上げろ



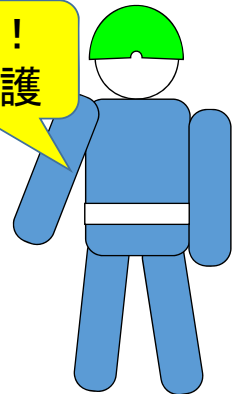
上げます



持ち上げますよ。



余震だ！
身体防護



よし、上がった
角材入れます

